

はまなす通信

野田はまなす会会報 No.64 (令和4年2月)

編集 野田はまなす会事務局 (野田村役場未来づくり推進課)
☎0194-78-2963

発行 野田はまなす会

写真: 野田村上空から見た三陸沿岸道路

待望の「三陸沿岸道路

久慈普代間(野田インターチェンジ)「開通

「仙台〜八戸間 359 km」

待ちに待った東日本大震災の「復興道路」として国が整備していた「三陸沿岸道路」が、令和3年12月18日に、未開通であった「野田IC」を含む久慈〜普代間(25 km)を最後に、全線開通(359 km)しました。誠にめでたいことです。

関東圏に住む野田村出身の私たちにとっては大変嬉しいことです。昭和40年・50年代は東北自動車道も細切れでした。野田に帰るときは国道4号線、又は国道45号線をひたすら走っていかありませんでした。昨今は東北自動車道で行き、八戸道の九戸インターチェンジで降りて1時間程度で野田に着きます。東北自動車道が繋がっていない頃、国道4号線は「酷道死号線」と言われ、道は悪いし、交通事故は多発していて帰郷するにしても大変でした。海を見ながらのんびり返るときは、仙台から国道45号線を通って帰りました。リアス式海岸沿いを通っているの、道はくねくね曲がっていて、スピードは出せないし、運転には常に緊張が強いられて、

疲れるし、帰郷も大変危険な思いをしました。

しかし、この度の三陸沿岸道路の開通で、そんなこともなくなりしました。良いことづくめです。東日本大震災では、地震と津波で多くの道路が寸断され、救助や復旧に大きな支障が出ました。岩手県は山が多く交通の便は悪いので、私の学生時代は「右手県は日本のチベット」だと揶揄されてもいました。豊かな海や山、農地に恵まれ、食料自給率も高く、素晴らしい景観にも恵まれ、「日本のスイス」でこんないい所は滅多にないと自己満足していました。三陸沿岸道路の開通で岩手、そして野田の価値がさらに高まってきたように思います。企業や工場の誘致、農水産物等の物流・観光の興隆等で野田村がさらに活性化するように期待したいと思います。

以上の他に、この開通で良かったことは沢山あります。仙台〜八戸間が車で8時間30分かかったのが、5時間に短縮されました。高速道路には通行料金がかりますが、「三陸沿岸道路」は

無料です。

また、「三陸沿岸道路」にはサービスエリアがなく、休憩はそれぞれの希望するICで高速道を降りて、食事や買い物等を楽しむこととなります。インターチェンジのある各市町村の特色ある工夫により地場産業等の興隆にも繋がるものと期待します。

野田でも、家族や職場や学校の団体が自分たちで活動しながら楽しめて癒やされる場所と時間を取れるような施設を十府ヶ浦公園に設けるのもいいと思います。例えば、バーベキューなど、手ぶらで来て、町で野田村産の肉や野菜、魚介類を買って、バーベキュー用具や燃料等はセットで借りてやれると便利で手軽でいいなと思います。

さて、会員の皆さん、コロナウイルスの感染が収束したら、是非、故郷野田村に帰り故郷を元気にしましょう。「三陸沿岸道路(野田IC)」の開通万歳!!!



開通式でのテープカットの様子前列左から2人目が小田村長

野田ICが完成
 令和3年12月18日に完成・開通した野田ICは、野田村役場から車で西に向かって約2分程度の場所にあります。すぐ近くには、震災後に新たに建設された「新町住宅団地」があり、県道野田山形線と交差する形になっています。この県道は、宇部川に架かる野田橋が東日本大震災時に通行止めになったこともあり、新町住宅団地に沿って、国道45号線の野田村漁協ガソリンスタンド脇から



下り方面入口 (八戸・久慈方向)



はまなす通信 No.64



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、ご健勝にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃から会の運営につきまして、格別のご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。昨年も新型コロナウイルス感染症に翻弄された年でありました。

新型コロナウイルスが猛威を振るい始めてから3年目に突入しましたが、なお収束に至らず新たな変異株オミクロンによる感染が確認されました。今年こそコロナ禍が収束し、素晴らしい1年になればと切に願うばかりです。念願だった復興の道、三陸道も最後まで未開通だった、久慈・普代間(25km)も12月18日に開通の運びとなり、仙台～八戸間(359km)の全線整備が完了した

この事です。

会員の皆様も帰省の折には利用されてみては如何でしょうか。子供の頃の光景が脳裏に焼き付いた十府ヶ浦海岸も震災で壊滅し風景が一変しました。就学前には前田小路の実家の前を海岸に向かう牛の群れが砂利道を列をなし、品評会か、セリなのか、異様な雰囲気であった記憶が残っております。又、はまなすの花が群生する砂浜で野球遊び(真似事)に興じ、ワカメ干しの手伝い、ウニ漁の手伝い等、いま想えば60数年前の全てが懐かしく思い出される今日この頃です。

ゆるやかに弧を描くように約2kmに亘る海岸は平安時代の和歌にも詠まれたとか。景勝地で断崖、岩礁の多い三陸北部では希少な砂浜と言われていたそうです。その風景も、今となっては目の当たりにすることもなく記憶のみとなりました。日本有数のマンガン鉱山として知られた「玉川鉱山」に親戚の叔父に連れられ見たときの驚きは何とも言えません。今想えばまず送鉱場建物の大きさに圧倒されたものです。当時、

村内でこれほどの大きな建物にお目にかかる事はまずありませんでしたから。

また、玉鉦野球部の対外試合の開催日には、約4kmの砂利道(45号線)を自転車で観戦に行くのも娯楽の一つであり、楽しみでもありました。結びに、今年が皆様にとって良い年でありませうとご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、貴会におかれましては、コロナ禍で交流する機会がない中、会報での情報発信など、首都圏と野田村をつなぐ活動を続けていただいております。久慈

宇部川に橋を架け、県立久慈工業高等学校下の村道に交差するように整備された道路です。これによって、野田ICを下りたらずくに国道に出ることもできますし、役場のある村中心部にも、山側の地域にも簡単に行くことができるようになります。また、野田IC付近には、新たな交流物産等複合施設の建設も予定されており、今後注目のスポットになっています。

会長をはじめ、会員各位のご尽力に深く敬意と感謝を申し上げます。

昨年12月、三陸沿岸道路が本村を含む全区間で開通いたしました。この道路は、産業・観光振興や医療圏へのアクセス向上、災害時などでの緊急支援物資の輸送路としての役割を担うなど、地域の発展、そして命を守る道として期待しております。さらに、野田インターチェンジ付近には交流物産等複合施設の建設に向けた検討を進めており、新たな村の玄関口として交流人口の拡大に期待しております。

新型コロナウイルスの変異株の感染も拡大しており、首都圏で暮らす皆様のご苦勞は計り知れないものがあります。感染対策徹底のうえ、健康第一でお体を労わってお過ごしください。新型コロナウイルス感染拡大が1日も早く収束し、また皆様と交流できる日が来ることを切に願っております。

結びに、貴会のますますのご発展と会員の皆様並びにそのご家族の皆様のご健勝とご多幸、そして、災害のない明るい年となることをご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

故郷での思い出



山根 善儀
横町地区出身
野田中昭和43年卒

「和佐羅比山は、遠きにおいて思うふもの」「和佐羅比や ああ和佐羅比や 和佐羅比や」昔の歌人とは比べようもないですが、私も故郷を離れてみると、故郷の景色をしみじみと懐かしく、美しく思い出します。

小学生の頃は、かけっこが好きで、授業が終わると友達と宇部まで片道4km程の距離を「いくぞー」と声を掛け合いながらランニングしていました。また、校庭で三角ベースの野球を楽しんでよくやっていたことも思い出します。中学校の遠足では、和佐羅比山にも登りました。今思えば、この和佐羅比山への道が「塩の道」ですが、その頃は全く分かりませんでした。ただただキツイ山道だったと記憶しています。

玉川海岸に浮かぶ「烏帽子岩」や「西行屋敷跡」の景勝地にもよく遊びに行きました。そして、玉川海岸と言えば、ここは化石の宝庫で、探検隊のつもりで発



小正月行事 ～なもみ～

※小正月行事は、最終ページで紹介（説明）します。

初志・看護師一筋



米持あや子
(旧姓 小野)
泉沢地区出身
野田中昭和40年卒

高校卒業まで住んでいた私の生家は泉沢で、泉沢公民館の側ですが、右側には和佐羅比山、左側には太平洋で松林と水平線が見えていました。家の前は田んぼと山です。紅葉の季節はきれいに映えていました。上京するまで見てきたこの景色は、今でもことある毎に思い出します。野田村の景色は最高だったと思います。

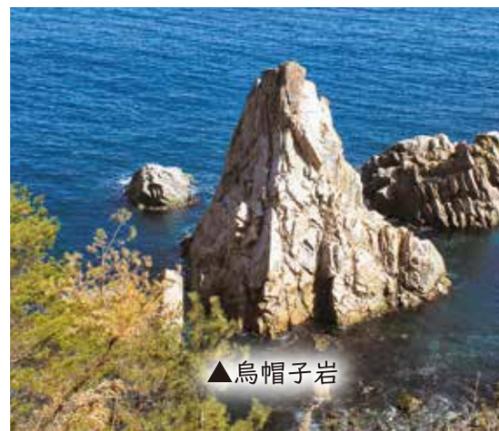
私は、昭和40年（1965年）3月に野田中学校を卒業しました。その後、岩手県立久慈農林水産高等学校家政科に進学しました。特に何をしたいという希望もなく、のんびりと過ごしていました。高校の卒業の年となる、どの道に進んでいいのか漠然としていてよく分かりませんでした。就職に向けての勉強らしい勉強もしていません、大変困りました。

その時思い浮かんだのが、野田小学校高学年の時に読んだ「ナイチンゲール」でした。ナイチ

掘に行った思い出もあります。「大唐の倉」がある「野田港」が大好きで、潮の引いた岩場で貝や海藻を採ったり窪地で逃げ遅れた小魚と戯れたりした「磯遊び」が楽しい思い出です。野田港の築港の防潮堤では、皆さんと輝く太陽の光を浴び、潮風に当たりながら良く釣りを楽しみました。

野田浜には沢山の思い出があります。中学時代には野球部に入っていて、十府ヶ浦の前浜から野田港までランニングし、脚力を鍛えていました。高校時代は陸上部に所属し、十府ヶ浦の砂浜で筋トレに励んだものでした。

その思い出深いふるさと野田村が、2011年3月11日の「東



▲烏帽子岩



▲野田港から見える和佐羅比山

日本大震災」で甚大な被害に遭い、懐かしい風景が一変しました。新聞、テレビや「広報のだ」はまなす会報」等で被害の実態を知り絶句しました。その日、私は東京の職場で勤務していて、2度にわたる大きな揺れで他の職員と一緒に屋外に避難しました。「ああ、わが故郷野田はいつたいうなっているだろうか？」と案じつつ、その日は交通機関が止まり、職場に寝泊まりしました。「ふるさと」の山にむかひて「言ひとなし、ふるさとの山は ありがたきかな」

今後とも、はまなす会の皆様と手と手を取り、励まし合いながら、ふるさとを大切にしていきたいと思っています。

ンゲールはイギリスの看護婦でクリミア戦争で、敵、味方の分け隔て無い負傷兵たちへの献身的な看護活動をし、近代看護教育の母、光掲げる貴婦人と称された女性です。「こんな人もいるんだ、素晴らしい。」と強く感銘したの思い出しました。それと同時に人を助けるこんな崇高な仕事に私にできるかしらと、ふと思いました。そのことを母親に話したら、「看護婦は、きれいな仕事だけではないんだよ。」とも言われましたが、私の希望が膨らんできました。高度な学力はありますが、両親からもらった丈夫な身体を使ってどんな苦労にも耐えて、病気で苦しんでいる人に寄り添える素敵な看護婦を目指そうと決心しました。

ちよつと不安もありましたが大きな夢を持って上京しました。同じ高校から5名で、大田区池上にある島田総合病院に勤め始めました。もちろん見習いです。半年間の見習い期間を終えて、看護学校の准看コースに入学しました。午前中は病院で働き、午後から学校に行きます。4人の同級生と一緒にいてくれたからつらいことはありませんでした。ホームシックにかかること



▲看護師として働く米持さん

野田村の風景～懐かしの景色・昔と今～

ふるさと野田村の風景を昔と今で並べて紹介します。

【愛宕町商店街】



昭和 38 年頃の愛宕町

これは今から約60年前の愛宕町商店街の風景です。この通りは、私たち新山や北区の生徒の9年間朝夕通った小学校、中学校への通学路でした。この道は国道45号線で、この頃はまだバイパスが通っていません。この道は、宮古方面や久慈方面へのバスやトラックなど自動車の通るのこの道しかありませんでした。道幅も狭く交通量が多かったように思います。又味わいのある商店で賑わっていました。中健商店では文房具や本と新聞を販売していました。合わせて旅館と下宿屋さんもやっていて、担任の先生がいるのでよく遊びに行っていました。この通りには、中野化粧品店、中伊呉服店、小田商店、明内牛乳店、福士食堂、小谷地商店、外館ラジオ店、白木屋クリーニング店など、確かパチンコ屋さんもありました。画面の右側には秋田川という幅4m位の川がありましたが現在は暗渠となっています。川があったのかどうか全く分からなくなっています。この通りは何千回歩いたのかとても懐かしい商店街です。

現在の愛宕町



准看護師になって仕事にも慣れてきました。その後、看護学校の正看護師コースに進み、勉強を始めました。頑張ったかいがあつて正看護師の国家試験も合格して、患者さんに喜んでもらえるような心を込めて仕事をしました。

東京に出てからの仕事は看護師一筋でした。今思っても本当にこの仕事を選んでよかったと思っています。定年まで病院勤務でしたが、定年後は、もう少しの間、自分には何かできるのではと思います。高齢者施設のデイサービスで、今も働いています。父や母の介護はできませんでしたが、色々な方に接する事で、あの世の父も母も喜んでくれているのではと思っています。

今振り返ってみると、自分の周りには本当に良い人たちがいて、その人たちに育てられたと思っています。友達や先輩、ちょっとした縁で一回りも二回りも年上の方のお付き合いもありました。「あなたは盆踊りが好きなんだから踊りを習おう」と誘ってもらい、今があります。高齢者施設での行事で踊りを披露しますと下手でも喜んでくださいます。「昔はよく見に行つた



▶ はまなす会ふるさと交流会で踊りを披露する米持さん

けど、足や腰が悪くなると行けないのよ。家の者も面倒そうだね。」と言われていました。自分も通る道、動けるうちは、大いに楽しみましようと言う気持ちで、毎日を過ごしています。そして、あの懐かしい野田村に、元気なうちに何回でも帰りたいと思っています。

令和4年度の「総会及びふるさと交流会」は中止します

【中止判断までの経緯】

令和3年11月28日に開催した「令和3年度野田はまなす会、正副会長・幹事長会」で

- ①令和4年度の総会及びふるさと交流会を5月8日に開催すること
 - ②第3回役員会及び新年懇親会を1月9日に開催すること
- などについて話し合われました。

その後、1月9日に開催予定だった役員会は新型コロナウイルスオミクロン株の急拡大により、正副会長、幹事長、顧問の6人による「LINE会議」に変更し、次のとおり話し合いました。

- 1 事業報告について
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していたほとんどの事業を中止。大半の会議が開催できない中、正副会長、幹事長会は開催することができました。
なお、はまなす会会報は欠番なく、No.63号、No.64号は8ページフルカラーで発行しました。
- 2 令和4年度の「総会及びふるさと交流会」について
感染症の収束の目途がつかないことから、残念ながら「中止」と決定しました。
- 3 令和5年度の「総会及びふるさと交流会」について
令和5年6月26日(日)開催予定、会場は「ホテルラングウッド」(日暮里)に決定しました。
- 4 はまなす会会報の発行について
会報は今後も欠番なく発行いたします。
- 5 令和4年度の年会費について
コロナ禍で行事・活動が十分にできない状況から、令和4年度の年会費は減額を検討しています。(令和3年度：3,000円)

「小正月行事」とは

野田村には、毎年1月15日に行われる伝統行事「小正月行事」があります。無病息災・五穀豊穡や家内安全を祈念して行われる様々な習わしを紹介します。

「みずき団子」

豊作祈願を込めて、みずきに団子を付けて飾ります。紅白の団子と子どもたちが思い思いに作った飾りが色鮮やかに会場を彩ります。



「どんと焼き」

正月の松飾りやしめ縄、お札などを家から持ち寄り、一カ所に積み上げて炊き上げます。祓い清める役割と正月に浮かれた人々を現実に戻す役割があるといわれています。



「なもみ」

小正月の夜になると山から降りてくる神様です。子どものいる家を訪問し、大きな声を上げてその家から悪霊を追い払い、子どもを戒めて悪い邪鬼を連れて出ていきます。



「大黒舞」

小正月行事のほか、新年興隆会や初午祭、各種式典など、めでたい席で披露されています。打ち出の小槌を振り、「福」を分けながら舞う縁起の良い踊りです。



あとがき

◆令和3年度の最後の会報をお届けします。米持あや子さん、山根善儀さんには貴重な「会員の声」の玉稿を寄稿いただきました。ありがとうございました。

◆故郷を離れて懸命に頑張ってきた姿、今、思い出すのは、やはり生を受け幼少期育てられた故郷・野田村でのこと。読んでいて感銘を受けました。

◆今回の会報も、カラー刷り8面の紙面で作成しました。写真を多くして見やすいように工夫しました。いつものことですが、村の事務局には紙面構成や編集、印刷、私たち会員への発送等々大変ご苦労をいただいたと思います。感謝いたします。

◆会報への要望、掲載希望等がございましたら、是非ご意見をお寄せください。また、「会員の声」や趣味で研鑽していること、絵画、書道、写真、俳句等々の作品を載せてみませんか？

◆次号でも故郷野田村の懐かしい風景をとりあげたいと考えていますので、会員の方で、3・11の津波前の古い写真をお持ちでしたら、お貸しくください。

◆現在、変異株のコロナウイルスが猛威を振るっています。感染拡大防止のため、密集・密接、密閉を避け、マスクをし、手の消毒を励行して、もう少し辛抱しましょう。収束したら、三陸沿岸(高速)道路で、早く安心して故郷野田に帰りたいです。

◆会報に関して質問、提案、ご意見などありましたら、事務局又は役員までご連絡ください。

(S・S)